



TITLE:

# 《資料紹介》 アムステルダム の社会史国際研究所蔵書目録

AUTHOR(S):

藤本, 哲生

---

CITATION:

藤本, 哲生. 《資料紹介》 アムステルダムの社会史国際研究所蔵書目録.  
静脩 1988, 24(3): 11-14

ISSUE DATE:

1988-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36991>

RIGHT:

TYPE IN COMMAND

9/D M.D ←すべての情報を表示する出力指定。以下が出力例  
D M.D

( 1 )  
ACCN : 000051421 CTLN : 0960395  
ABSJ : V (Virology Abstracts)  
DTYP : J (Journal article)  
AUTH : Aoki, T.; Miyakoshi, H.; Usuda, Y.; Chermann, J.C.; Bare-Sinoussi, F.; Ting, R.C.; Gallo, R.C.  
AFFN : Res. Div., Shinrakuen Hosp., Niigata, Japan  
TITL : Antibodies to HTLV I and III in sera from two Japanese patients, one with possible pre-AIDS.  
LANG : En.  
TEXT : The presence in Japan of acquired immunodeficiency syndrome (AIDS) or pre-AIDS is controversial, even though two Japanese cases of suspected AIDS have been reported. Although adult T-cell leukaemia and the causative agent, human T-lymphotropic retrovirus type I (HTLV-I), are well recognised in Japan, HTLV-III and the probably identical lymphadenopathy virus (LAV) have not hitherto been reported in Japan. The authors report here two Japanese patients with lymphopenia, reduced helper T-lymphocytes, and serological evidence of exposure to HTLV-I in one and HTLV I and III in the other. A biological response modifier ("Lentinan") seemed to affect their immunosuppression. The existence of AIDS or pre-AIDS in Japan has not been officially recognised by Japanese clinicians. Patient 1 had antibodies to HTLV I and III. Patient 2 had antibody to HTLV-I and HTLV-I p24 antigen (but not antibody to HTLV-III). This is the first time that HTLV-III has been reported in Japan. Japanese cases with AIDS or pre-AIDS may have been missed because of lack of objective criteria: a conclusive diagnosis can now be reached testing for HTLV-III antibody or antigens or the retrovirus itself.  
HTIL : LANCET.  
HYER : 1984.  
HCOL : vol. 2, no. 8408, pp.936-937  
CLAS : 22099 (IMMUNOLOGY; Immune response & immune mechanisms)  
MSBJ : man; Japan; acquired immune deficiency syndrome; T cell leukemia virus I; T cell leukemia virus III; antibodies  
FIDX : serum levels

〈資料紹介〉

アムステルダム の 社会史 国際研究所蔵書目録

藤 本 哲 生

1. はじめに

附属図書館では、新館開館の頃から計画的に高額な参考図書類が備えつけられるようになりました。今後、この資料紹介欄で資料内容を含めて逐次紹介していきます。

図書館の蔵書目録は、その館が特色ある収書方針のもとに立派なコレクションを築き上げている場合には、貴重な書誌として役立ちます。ここに

紹介しようとするアムステルダム の 社会史 国際研究所 (以下 IISG という) の蔵書目録は、広義での労働運動の歴史に関心のある人にとっては見逃せない、興味深いものです。

2. IISG とその蔵書

この IISG は、1935年にアムステルダム 大学と密接な関係をもちながらも、独立の組織として設立されました。この設立の経緯及び収集について

は註1の論文が詳述しています<sup>2)</sup>。ここの図書館には労働運動と労働者思想が、国際的な広がりにおいて反映されています。主に19・20世紀に重点が置かれていますが、それ以前の時期もカバーされています。この蔵書目録には図書及びパンフレットだけが収録されていますが、その他に当研究所にはいわゆる逐次刊行物も豊富に収集されています。図書館とは別に、手稿／文書部があり、これが世界唯一の手稿／文書であり、そのマイクロフィルムは極く僅か他の研究機関にもあつたり、活字となっている場合もありますが、やはりオリジナルを自分の眼で確かめるため、世界中の研究者がアムステルダムを目指すのです。

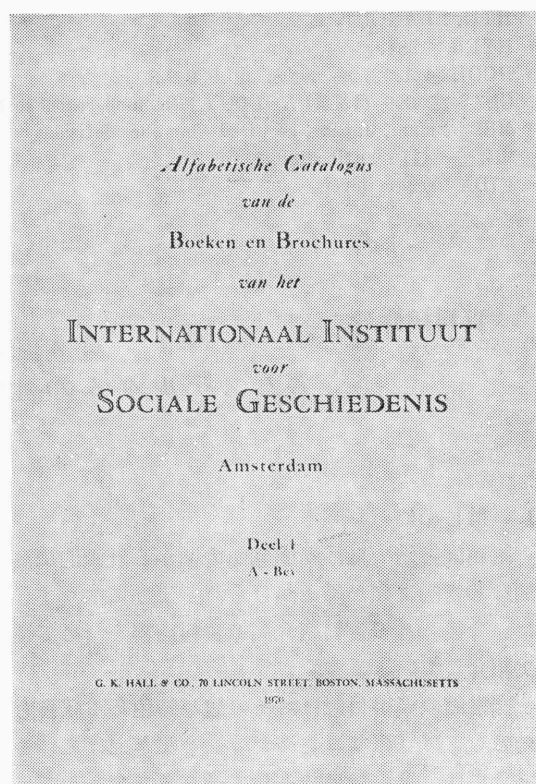
ここの蔵書は、この目録の正篇の作成時点で既に35万冊を数えていましたから、今は40万冊をはるかに越えているでしょう。ここの蔵書のもとになったのは、有名な研究者の蔵書／文庫です。例えば、マックス・ネットラウ (Max Nettlau) のコレクション、彼はアナーキストとしても有名ですが、それ以上にその歴史及びバクーニン伝の執筆に献身した人です。彼の心血をそそいだバクーニン伝は活字としては遂に出版されず、死後数十年した1971年に、手書き原稿のままのファクシミリ版として刊行されました<sup>2)</sup> (法学部所蔵)。独文で、かなり読み難いが標準的な筆記体ですので、少し努力して慣ると (もちろん活字で読むよりはるかに時間がかかりますが) 読めます。このネットラウ文庫には約4万件のアナーキズム関係の文献が収集されています。リュシアン・デスカヴ (Lucien Descaves) のパリ・コンミュン関係コレクション、1600年から1860年代の、イングランド、スコットランド、アイルランドの民主主義的、急進主義的、社会的運動及び思想に関する、いわゆるカシュノール (Kashnor) コレクション (約1万件)、グスタフ・マイヤー (Gustav Mayer) の19世紀のドイツ社会民主主義運動及び初期ドイツ社会主義の歴史に関するコレクション等があります。G・マイヤーは、フリードリッヒ・エンゲルスの伝記者として有名です。彼の伝記は御世辞にも面白いものとは言えませんが、文献に基づいた着実な伝記とは言えます。その他に北米

大陸関係、スラヴ関係 (約4万冊)、第1・第2・第3インターナショナルと国際労働組合連盟 (Trade Union International) の傘下組織の出版物のコレクションがあります。

### 3. 蔵書目録について

この蔵書目録は、よくあるように目録カードのオフセットによる縮小印刷です。前書きによると、その記入はまず伝記的な記入が主記入に優先します。団体著者は採用されていません。個人名の書誌のコントロールはなく、その出版時の綴りのままで排列されていますので、注意を要します。匿名著者のものは、著者の本名が判明していても、匿名の最初の主格の名詞からとられています。ロシア語などのいわゆるキリル文字の翻字には、少し変更を加えた上で、ISO方式を採用しています。よくあるLC方式と多少異っているのも、これにも注意を要します。

ざっとページをめくってみると大体の排列の基準がのみこめてきますが、一例としてバクーニン



関係のところを挙げて説明しましょう。バクーニンの綴りは、英・独・仏・蘭語で **Bakoenin, Bakoenine, Bakounine, Bakunin** と 4 通りあります。バクーニンの場合には、ISO 方式と LC 方式とではキリル文字の翻字法が異なりません。個人名の典拠コントロールがなされてないと前書きにあります。参照カードにより、結果的には集中してきます。この目録は図書及びパンフレットだけを収録しているのですが、雑誌論文の抜刷り等が製本されたものもあります。(例えば、『出版と革命』というソ連の雑誌の1921年から1924年の各号に載ったバクーニン関係論説が集められています。) 収集者の個人的努力によるようで、その死後にはそういうものは見当りません。バクーニン関係の箇所は第1巻448頁～457頁で、収集者の当時としてはほぼ完璧な収集だったろうと思われます。バクーニン伝にかけたネットラウの情熱、執念がうかがわれます。排列はバクーニン自身の著作が先に来るのではなく、バクーニン関係の著作が主題的に集中されていて、各著者へ参照するように指示されています。このグループ内では著者のアルファベット順のようです。収集者ネットラウ自身の著作は451頁中段から出てきます。16点あることが分ります。詳しい書誌の事項も知るためには、Nのネットラウのところを見る必要があります。バクーニン自身の著作は252頁～457頁に載っており、各国語の全集、選集、単行書、パンフレットの集成で、よくもこれだけのパンフレットを集めたものだと思嘆します。

#### 4. 余 話

IISG には、マルクス・エンゲルスの遺稿があり、これをめぐる興味深い裏話がありますので紹介します。マルクス・エンゲルスの遺稿は彼等の死後ドイツ社会民主党が保管していました。しかしヒトラーの台頭により、同党も非合法化され、これらの文書も危険に瀕し、コペンハーゲン及びパリに疎開させました。一方、ロシア革命以後ソ連邦にマルクス・エンゲルス研究所が創立されて、所長リャザノフ以下の努力により活潑に資料収集が行われていましたので、ドイツ社民党もこれらの文書の売却の交渉をソ連邦ともつことになりま

した。結局は交渉は不調に終り、アムステルダム の当研究所に納ったのですが、この交渉のための代表団がソ連邦から派遣され、その一員にあのブハーリンが加わっていたのです。ブハーリンは当時失脚していて、政治生命はほぼ絶たれ、2年後には粛清裁判で死刑を宣告されるという、運命の別れ途にいたという現代史の最もドラマチックな事件が起ころうとしていた頃です。ブハーリンに対して亡命の誘いかけがされたのですが、「わたしはロシアなしでは生きていけそうにない。」とこの誘いを断ったそうです。マルクス・エンゲルス文書の売却に関してのドイツ社民党側に元メンシェヴィキのボリス・ニコラエフスキーがいて、仲介しました。彼とブハーリンは以前から多少の面識があったので、公式の話し以外に、個人的な話もでき、そのなかでソ連邦の政治の内幕について一部もらしたのです。そこでニコラエフスキーは、この談話と他の人から得た情報を総合して、メンシェヴィキの機関誌『社会主義通報』1936年12月22日号に「一古参ボルシェヴィキの手紙」と題して発表して、センセーションを惹き起こしました。この手紙が当時のロシア共産党内闘争を伝える貴重な証言として史料視されてきました。1965年になってニコラエフスキーはこれを自分の著書に収録するに当り、はじめてこの手紙が彼の手になるという事実を明らかにしました。またブハーリンが『資本論第三部』の草稿を繰返し読んで、階級に関する箇所が明確でないままで中断していることに大いに失望して「ああ、カリューシャ、カリューシャよ、なぜおまえは最後まで書けなかったのかい。それはおまえにはむづかしいことだった。しかし、書いていてくれたらわれわれにとってどんなに役立ったかしれないのに。」と嘆息をあげたと述べています<sup>3)</sup>。

『資本論』の文献学的研究が、刊行されたものに頼るだけでなく、草稿にまで遡及して研究されるようになって、IISG は我国でも有名になりました。

この蔵書目録はA 4判の大冊で正篇全12冊、第1、第2補遺全5冊です。1975～1979年に出版されました。補遺版は1975～1978年に処理されたも

のと、ラテン・アメリカ、チェコ・スロヴァキア、ブルガリア、ルーマニアやアジアに関するパンフレットを収録したものです。

請求記号は YP21 I1 で、B2 階中間ブロック東側、新分類洋書が排架されている場所にあります。

Alfabetische catalogus van de boeken en brochures van het Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis. Amsterdam.

Boston [Mass], G.K. Hall & Co. 1975-1979.

- 1) Mayer, Paul: Die Geschichte des sozialdemokratischen Parteiarchivs und das Schicksal des Marx-Engels-Nachlasses, *Archiv für Sozialgeschichte*.

(Hannover), Bd, VI/VII 1966/67 SS.5-198

佐藤金三郎「アムステルダムだより— IISG とマルクス・エンゲルス遺稿をめぐる—」思想556(1970. 10)pp.125-141

- 2) Nettlau, Max: Michael Bakunin: eine Biographie 3Bde in 2. [1896-1898.] (Only 50 copies of this edition have been produced, all of which are numbered and signed.) Feltrinelli Fac-simile reprint 1971. この Reprint の元になった版は限定22部目の Jacque Meseil(?) に贈られのものである。(市販用限定20部中№10のものが法学部図書室の所蔵である。)
- 3) Nicolaevsky, Boris I.: Power and Soviet elite; "the letter of an Old Bolshevik" and other essays. ed. by Janet D. Zagoria pp.3-25. 25p.

『権力とソヴィエト・エリート』中村平八・南塚信吾訳 みすず書房 1970. pp.19-41. p.36

## 「京都大学同和問題文献・資料コーナー —図書目録—1986」を刊行

本学では、教職員・学生が同和問題に必要な調査研究や学習等を積極的に行っていくため、昭和48年に同和問題委員会が発足、51年度からは同委員会に選書小委員会が設置され、関係図書・雑誌の選定、収集が行われてきました。

選定された資料は学内4キャンパス、すなわち附属図書館、農学部図書室、教養部図書館、医学図書館の資料コーナーに配架しています。

今回発行した目録には、昭和49年度～61年度までの13年間に受入れた図書：約800点、雑誌・新聞：20種を収録しています。

この目録は2年に1回累積版として発行し、全学の図書館(室)に配布してあります。この小冊子が少しでも利用者のお役に立ち、同和問題に対する自発的な調査研究や学習に資することが出来れば幸いです。

## 中国から学術図書の寄贈を受ける

このたび、附属図書館は中華人民共和国国家教育委員会(日本の文部省にあたる。)のご好意により、1000余冊の図書と逐次刊行物10種の寄贈を受けました。

〈内訳〉

図書(中国書)：経済学，文学，歴史，自然科学関係等： 883冊

(洋書)： 2冊

(参考図書)： 129冊

逐次刊行物： 10種

寄贈受入手続後、直ちに目録・分類等作業を行い、それぞれ二階開架閲覧室又は一階参考図書室に配架しておりますので、せいぜいご利用下さい。

## 第1回国立大学図書館協議会シンポジウム(西会場)開催される

国立大学図書館協議会は、昭和60、61年度に設置された調査研究班及び学術情報システム特別委員会での検討内容を現場の第一線で活躍している実務者(掛・係長)に周知、理解を深め、実現方策について方向性をみだすため、東西二会場でシンポジウムを持つこととし、西地区については本学図書館を会場として、32大学から34名の出席をえて、昨年10月22日(木)～23日(金)に開催した。

第1部：図書館業務のシステム化と目録システム

課題報告では学術情報システム特別委員会の設置、学術情報センターへの要望書提出までの経過の報告、図書館ネットワークの立場からのシステム化及び目録システム(OPAC)がハウスキューピングに優先すべきことが強調された。